

地形・地質

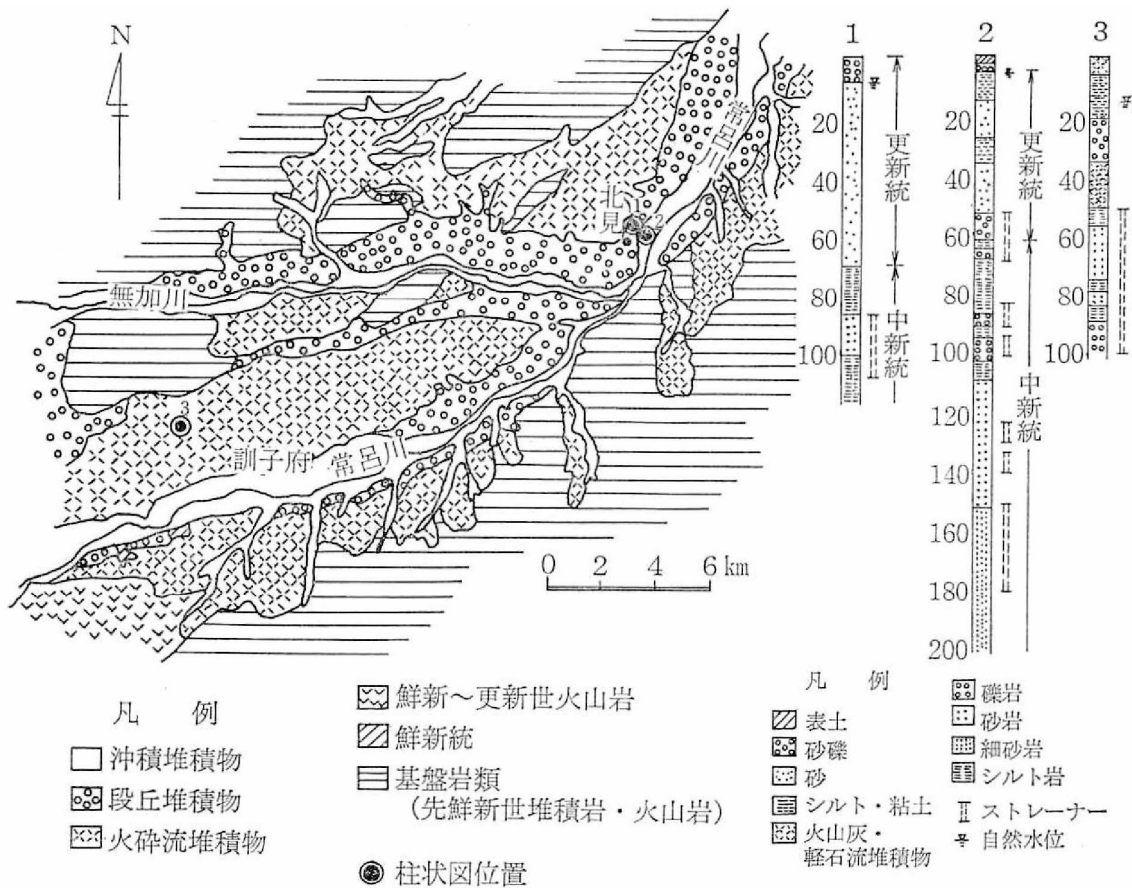
北見盆地は、無加川と常呂川に沿って南西―北東方向に延びた細長い盆地で、断層運動により地溝状に陥没してできたものとされています。盆地内は段丘地形の発達が著しく、沖積地は無加川、常呂川などの河川沿いに分布するだけです。

北見地域の地層層序

時 代	地 層 名
第 四 紀	完新世 現河床堆積物 崖錐堆積物
	更新世 河岸段丘堆積物 屈斜路火砕流堆積物 石英安山岩質火砕流堆積物
新 第 三 紀	鮮新世 上 仁 頃 層
	中新世 協 和 層 相 内 層 津 別 層
古 第 三 紀	栄森層・陸別層
先 第 三 紀	先第三紀層・先第三紀火成岩類

地下水

北見盆地およびその周辺で帯水層となり得るのは、中新世の相内層および、これより新しい地層で、最も有力な帯水層は、下部更新世と考えられる砂礫層です。北見盆地の地下水の水質は、一般に鉄の含有量が多いことが問題となっています。



北見盆地の地質図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）